

3年道德通信

第28号

第28回『あの日 生まれた命』

東日本大震災の被災者への支援プロジェクトを巡る実話を通して、家族の大切さ、生命の尊さについて考えました。

2011年3月11日に真奈ちゃんを産んだお母さんは、その4時間後の地震で祖母を亡くしました。お母さんは真奈ちゃんが生れたことを素直に喜び気持ちになれず、複雑な思いを抱え続けました。真奈ちゃんが1歳の誕生日を迎える頃、北海道の「君の椅子」プロジェクトの人たちから、木製の小さな椅子が贈られてきました。

「新しい命が誕生する喜びを地域全体で分かち合いたい」という願いを込めた椅子が贈られてきたことで、ようやくお母さんは真奈ちゃんの誕生を素直に喜んでいいのだと思うようになりました。



希望の「君の椅子」
Kibou no "KIMINODISU"

2011年3月11日生まれ
宮城-001
-たくましく未来へ-

みんなの意見

「お母さん」は、どうして娘の誕生を素直に喜べなかったのでしょうか。

- ・祖母が亡くなったことと、たくさんのものを失って、ショックだったから。
- ・新しい命とともにその日のことを思い出してしまうから。
- ・悲しんでいる人がいっぱいいる中で喜んでいいのかどうか、とまどう思い。

「お母さん」と真奈ちゃんが、「希望の椅子」とともに受け取ったものは何？

- ・亡くなった人の分、その子が元気に育ってほしいという思い。
- ・その子の未来への希望
- ・たくさんの人たちからの希望と愛情
- ・素直に喜んでいいという気持ち

「命」の尊さについてどんなことを考えましたか？

- ・どんな日に生まれたとしても、生まれたことはすごいことだと思う。
- ・生きることは死に近づくこと、死ぬことは生きてきたから、というようにつながっている。
- ・命の入れ替わり、生まれかわりを感じた。
- ・あの日、失われた命はもう戻ってこないけれど、わずかな可能性の中、うまれてきた子供たちはその日のことを忘れさせない命の結晶になると思います。
- ・3.11に生まれたことで、震災のことを思い出す人がいたりするかもしれないけれど、新しく生まれたことで、その命がまた、誰かをすくってくれると思う。

命を大切にすることは、どういうことだろう。